

地域農業を支える多様な人材の活躍

～ 空知管内における農福連携の推進に向けた取組み ～

対象：農福連携志向農業者 など

1 活動の背景

◇農業・農村を支える人材の状況◇

- 後継者不足や高齢化から農業の労働力不足が問題 → 労働力の確保
 - 多様な人材・多様な形態による労働力の確保が必要
 - 農福連携や外国人技能実習生、フレックスタイム、ワンデーの雇用等
- ～多様な人材は、農作業や農作物栽培の知識習得と同時に農業の理解者となる期待～

◇農福連携の推進に向けた取組み◇

- 志向農業者・志向福祉施設ともに具体的情報が少なく取組みが鈍い
 - 総合振興局や関係機関と連携し推進する必要性
- ～地域係・関係機関と連携した労働力確保の取組支援と対象者へのフォローアップ～

2 活動の経過

◇岩見沢地域における農福連携推進◇

- 振興局農業経営係と連携し、空知管内の農福連携推進に向けた取組内容を検討
 - 【R2年度】空知管内農福連携セミナー開催
 - ～指導農業士・農業士と福祉施設の出会いの場となった～
 - 【R3年度】岩見沢地域での農福連携試行農家（指導農業士）をモデルとした取組み
- 農場作業見学会 □お試し体験会 □意見交換会 □先進地視察 □農福連携セミナー
 - ～モデル農業者の取組みが認識され、新たな2戸の農場での農福連携につながった～
- 【R4年度】岩見沢地域での農福連携試行農家（指導農業士）をモデルとした取組み
- 農場作業見学会 □お試し体験会 □意見交換会 □農福連携セミナー □先進地視察
 - ～農業者、福祉事業者、JA、市役所担当者との連携による、農福連携の実施に向けた体制づくりの検討、推進へ～

◆R2～岩見沢地域の農業者（岩見沢市 A指導農業士）をモデルとした取組み◆

～ひまわりは種作業の試行から、通年作業の実施、2年目の取組みへ～



R2～ひまわり収穫作業（花切り）



R3～ひまわり生産部会 B農場
でのひまわりは種作業開始へ



R3 ひまわり生産部会 C農園
でのひまわりは種等作業開始へ

□R3～新規2件の農場での取組み開始（岩見沢市 B農場、C農園）

～モデル農業者の取組みが認識され、新たな2戸の農場での農福連携につながった～

◆R2～農福連携の試行（岩見沢市 D指導農業士）◆

～R3 脚立不要の果樹（ブルーベリー）のお試し作業・見学会の実施～



R2 果樹（りんご）のお試し作業・見学会(葉摘み)

事業者「脚立作業は、利用者の足が悪く、困難」

農業者「脚立不要の作業もある。また次年度、違う作業のお試しを」



R3 果樹（ブルーベリー）のお試し作業・見学会(収穫)

◆担い手担当者による管外先進事例調査の実施（上川総合振興局）◆

最初は枝拾いから始めたりんごの作業→「今では健常者と変わらない」と農業者からのお墨付きに。



福祉事務所での聞取調査



果樹園での葉摘み作業見学

～キーマンの存在（ジョブコーチ）、職員の役割、工賃設定、契約、トライアル期間～

- ・事業者職員は、実作業のフォローと指導。
- ・利用者ができない作業は、依頼を受けない。
- ・工賃設定は打合せで決定。随時見直し。
- ・作業内容・金額見直しの度に契約書更新。
- ・農福だから0.5の時給、能力ではない（訓練を進めて1.0が目標）。
- ・トライアル期間を設け、納得のいく単価交渉につなげる。

◆農福連携セミナー・岩見沢地域農福連携関係者意見交換会の実施◆



農福連携セミナーでの事例紹介



ワークショップ（意見交換会）

～お互いを知る、コミュニケーション、信頼関係が重要～

□モデル農業者・事業所の取組みから見えてきた課題

- ・単価設定が難しい。
- ・事業所の農業への理解が大きく、結果的に支援員が無理をしていないか？
- ・継続のために農業者が無理をして仕事をつくっていないか？
- ・福祉事業者の状況が分からない。
- ・事業所からは言いだしにくい。

3 成果の具体的内容

- ◇管内担い手担当、本所園芸担当、振興局担当との連携、情報共有化による共通認識の醸成
- ◇岩見沢地域における農福連携の取組みが新たに開始された。

4 今後の課題と対応

- ◇各地の農福連携事例収集、管内の福祉事業所および農福連携体制構築に向けた状況把握
- ◇岩見沢地域および空知管内における、農福連携体制構築と関係機関の役割分担
 - ・視察研修、研修会、意見交換会の企画開催支援および交流の場づくり
 - ・農業者、福祉事業所双方が納得できる、継続性のある取組みとなるような仕組みづくり